

枚方市の自然

一枚方ふるさといきもの調査から

2002



枚方市

枚方市では、平成12年(2000年)から2か年をかけて「枚方ふるさといきもの調査」を行いました。この調査は、市内の自然環境に関する新しい情報を収集し、過去2回(昭和63年～平成元年、平成6年)の自然環境調査の結果とともにデータを再整理・再評価したうえ、将来の世代に残したい枚方の自然を見いだすことを大きなねらいとしました。



もう一つの目的は、市民の皆さん自身に調査に参加していただくことでした。それによって、自然とのふれあいはもちろん、データを集めながら自然への理解を深め、自然環境保全への思いを高めていただくと考えたからです。その市民参加型調査には300人を超える人たちが参加され、「生き物マップ」を作ることでもできました。



このハンドブックには、調査によって得られた自然環境の概要、おもな動植物の種、「残したい自然」——などが織り込まれています。内容は調査結果の一部ですが、この冊子が、大切な枚方の自然について皆さんの関心、理解を深め、その保全、回復に役立てられるようお願いものです。



もくじ

■ 発刊にあたって	01
■ 枚方の自然	
枚方の地理・地形	02
植生マップ	03
緑被率の変化	04
植物	05
孤立林	06
重要な樹木	07
植物の保護上重要な地域	08
昆虫類	09
鳥類	10
魚類	11
両生類・は虫類	12
ほ乳類	13
大阪府域の野生生物種との比較	14
■ 残したい自然	
残したい枚方の自然	15
「残したい自然」マップ	16
穂谷・尊延寺地区	17
淀川などの河川	18
ため池	19
田んぼと畑	20
おもな孤立林	21
■ エピローグにかえて	22
パートナーシップづくりも課題に…	
自然にふれあうマナーを守って!!	
枚方市内で活動している市民団体	



枚方の地理・地形

●枚方市は大阪府の東北部、淀川沿いに位置し、東西12km、南北8.7km、市域面積は65.08km²。生駒山地から続く起伏と淀川がつくる低地部によって形成されており、最高地点は海拔330m、最低地点は4.1mです。地形は標高によって大まかに4つに区分されます。

●標高100m以上の山地地区(地形区分Ⅰ)は、生駒山地から連続する山間部であり、市の東端部を占めます。標高50～100mの山麓地区(地形区分Ⅱ)では、長尾丘陵が山地部に続き広がっています。標高20～50mの丘陵地区(地形区分Ⅲ)では、天野川以

西の枚方丘陵(香里丘陵)と以東の枚方台地が広がっています。枚方丘陵は尾根筋が東西に走り、枚方台地は標高約30mの平坦な段丘面です。標高20m以下の淀川低地地区(地形区分Ⅳ)では、淀川とそれに流入する河川の氾濫原が広がっています。



空からみた枚方



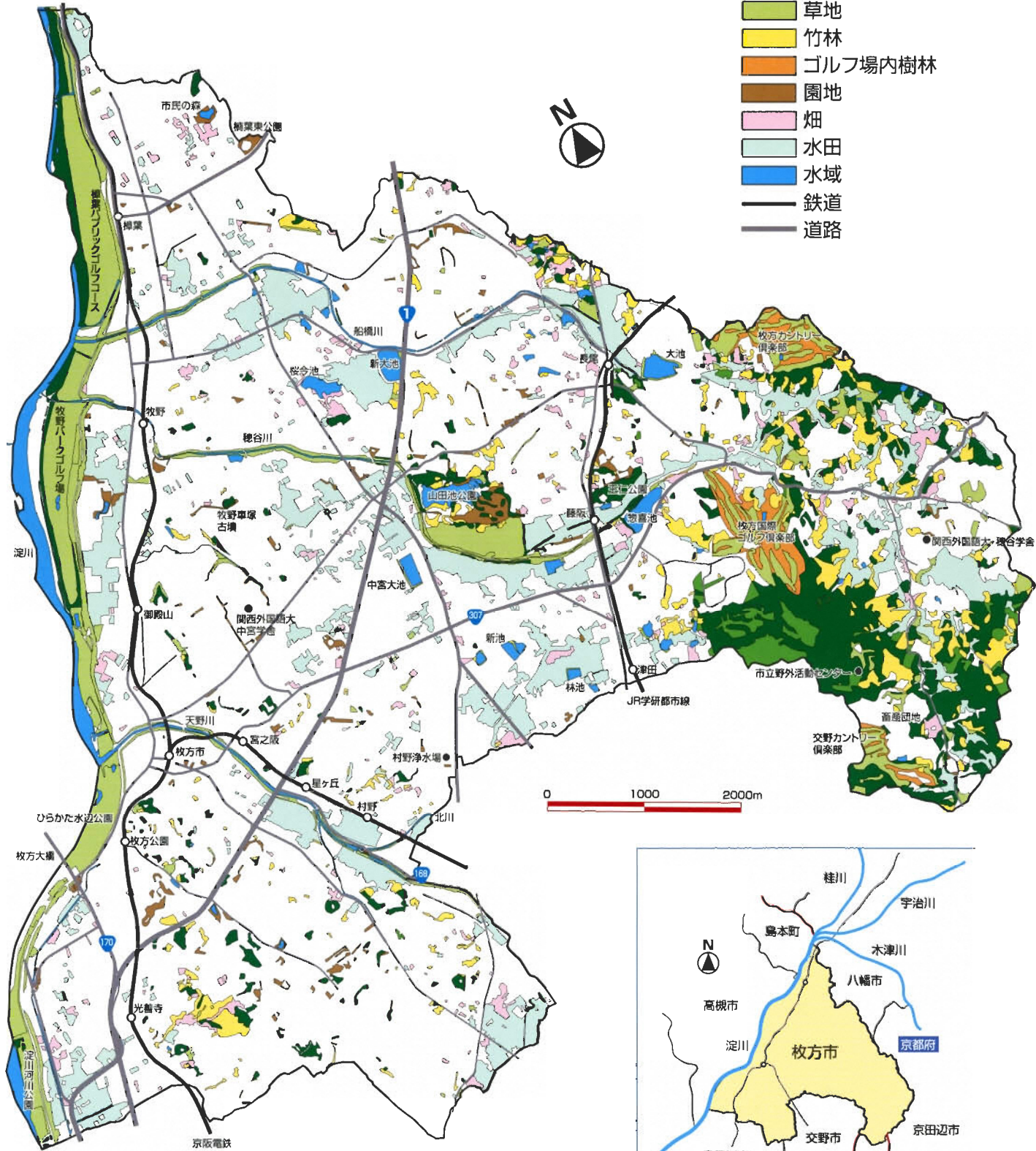
国土交通省近畿地方整備局浪速国道工事事務所 提供の写真を修正・加筆したものです

植生マップ

「枚方市現存相観植生図」をもとに緑地のタイプや水域を区分したものです

凡例

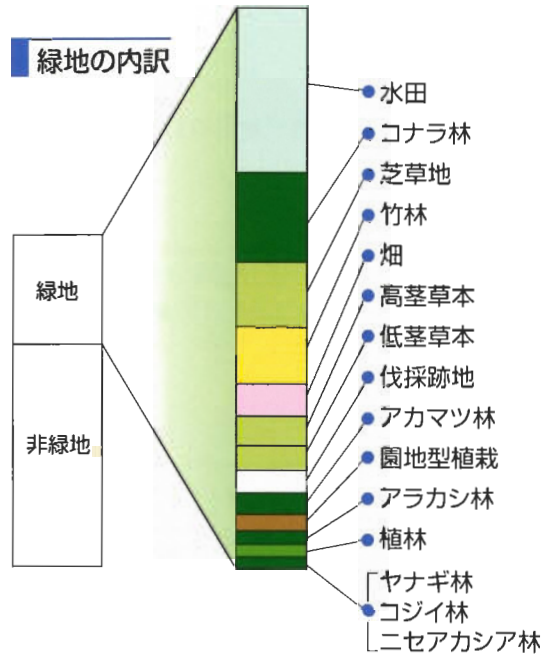
- 自然林
- 植林
- 草地
- 竹林
- ゴルフ場内樹林
- 園地
- 畑
- 水田
- 水域
- 鉄道
- 道路



植生の概要

森林については、枚方市の気候のもとでは、大部分がシイ・カシなどを主体とする暖温帯常緑広葉樹林帯に属していますが、現在そのほとんどはコナラ林やアカマツ林などの二次林（人間の活動によって原生林が改変されて成立した樹林）に置き換わっています。本来の植生である常緑広葉樹林は、社寺林などにコジイ林、アラカシ林としてわずかに残っています。

草本については、淀川河川敷にかつて広く分布していたヨシ群落、オギ群落などの自然植生に近い湿地性高茎草本群落が河川改修などで失われ、今では楠葉付近にわずかに見られるだけになっています。船橋川、穂谷川、天野川などおもな河川では、セイタカアワダチソウやクスが連続的に分布しています。



里山

「植生マップ」でわかるように、穂谷・尊延寺地区などの東部地域は、コナラ林やアカマツ林などの二次林を中心とした自然林が多く見られ、里山と呼ばれています。

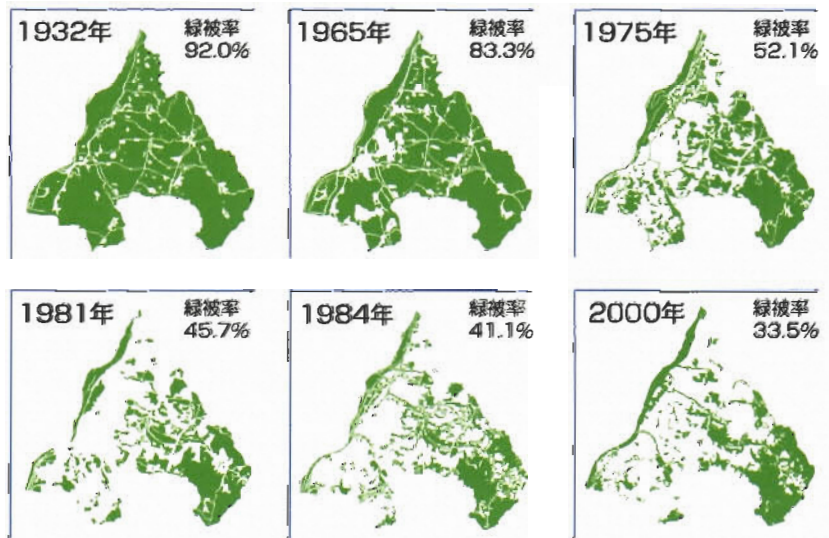
里山は、低山や丘陵に広がり、農業を営むのに必要な薪炭をはじめ、木材や堆肥、木炭などを生産する農用林。里山は、さまざまな生産機能をもっており、その自然条件に合った利用、管理が長年続けられることによって豊かな動植物をはぐくみ、生物多様性を維持する重要な役割をになってきました。しかし、燃料革命などによって里山は活用されなくなっており、生物多様性も著しく減少しているのが現状です。



緑被率の変化

今回確認された平成12年(2000年)の緑被面積は約2,160ha。平成2年(1990年)に比べると、10年間で7.6%減少しています(両年の調査対象地をそろえるため草地を除いた緑被地合計で比較)。

緑被率の移り変わりをみると、人口が約13万人だった昭和40年(1965年)は83.3%でしたが、約30万人となった昭和50年(1975年)には52.1%にまで減少。以降、人口の伸びにあわせて減っています。一方、淀川沿いの草地と東部地域の穂谷・尊延寺地区が“緑の核”として位置づけられることが読みとれます。



植物

今回の調査で127科657種が確認されました。
環境別にみると……

● 里山 (穂谷・尊延寺地区)

全体の約80%にあたる520種が確認されています。
よく見られるニワゼキショウ、シャガ、ネジバナのほか、チゴユリやアケビ、リンドウ、ヤマハッカ、アカネなどもみられています。

● 淀川

穂谷・尊延寺地区では見られず、淀川河川敷で確認された種は62種。セイタカヨシ、アカメヤナギ、オニグルミなど河川特有の種や、アレチウリなど外来植物が多くみられています。

● 市街地の水田

ウキクサ、オモダカ、オオカワヂシャなど富栄養湿地に生育する種が確認されています。種数は他の環境に比べて最も少なくなっています。

● 河川

土手にクズやセイタカアワダチソウが密生することが多く、ヨモギ、ホソムギ、ギンギンなどが混生。河床にはオオカワヂシャ、オランダガラシ、ミゾソバ、タガラシが多く、水分条件の違いによってさまざまな種がみられます。



ツククサ



カラスノエンドウ



オオイヌノフグリ



ニワゼキショウ



アレチヌスピトハギ



ハコベ



シャガ



クズ



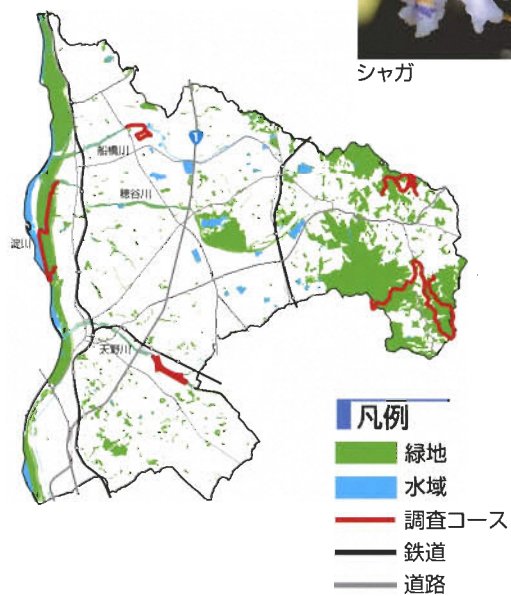
ネジバナ



ドクダミ



カラスウリ

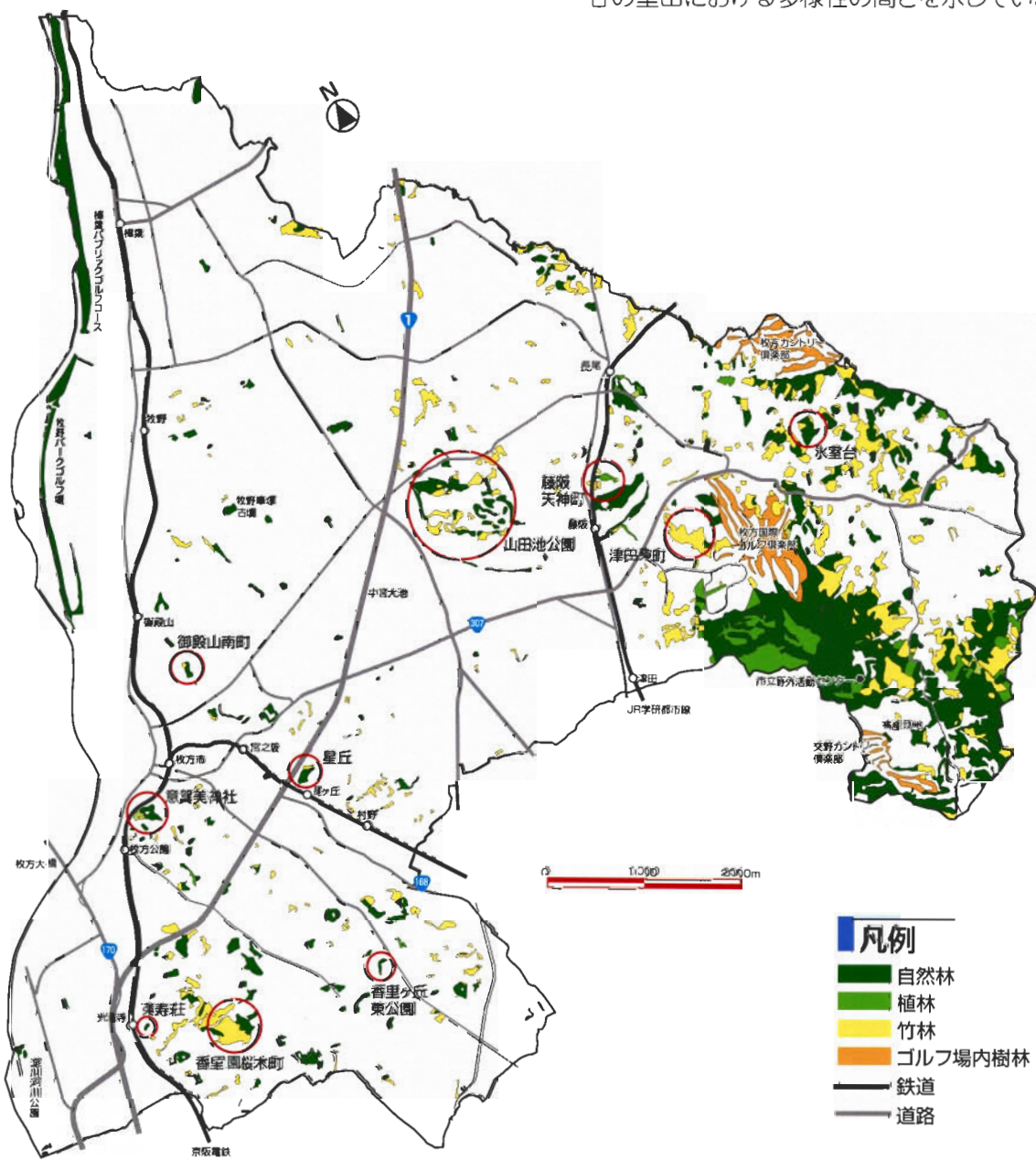


■ 孤立林

海に浮かぶ島のように点在する孤立林の調査も行いました。対象は0.02ha(200m²)以上の孤立林で、418か所ありました。面積別では、0.1~0.2haが最も多く、0.3ha以下で半数近くを占めています。孤立林の多くは林内が暗く、草本類は多くありません。しかし、鳥が実を食べ糞に混じることで種子が散布されるトウネズミモチ、ムクノキ、ノブドウなど平均80~90種が確認されています。

孤立林の面積の大きさと生物の出現種数の多さには、一定の関係があるとされています。そこで、面積や周辺環境の異なる10か所を代表孤立林として選び、一部の昆虫についても調査。面積の広い藤阪天神町にはチョウの種類が多く、狭い御殿山南町では少なくなるなどの関係が示されました。市街地の1か所でヒメボタルが確認されましたが、分布が孤立しているため危機的な状況といえます。

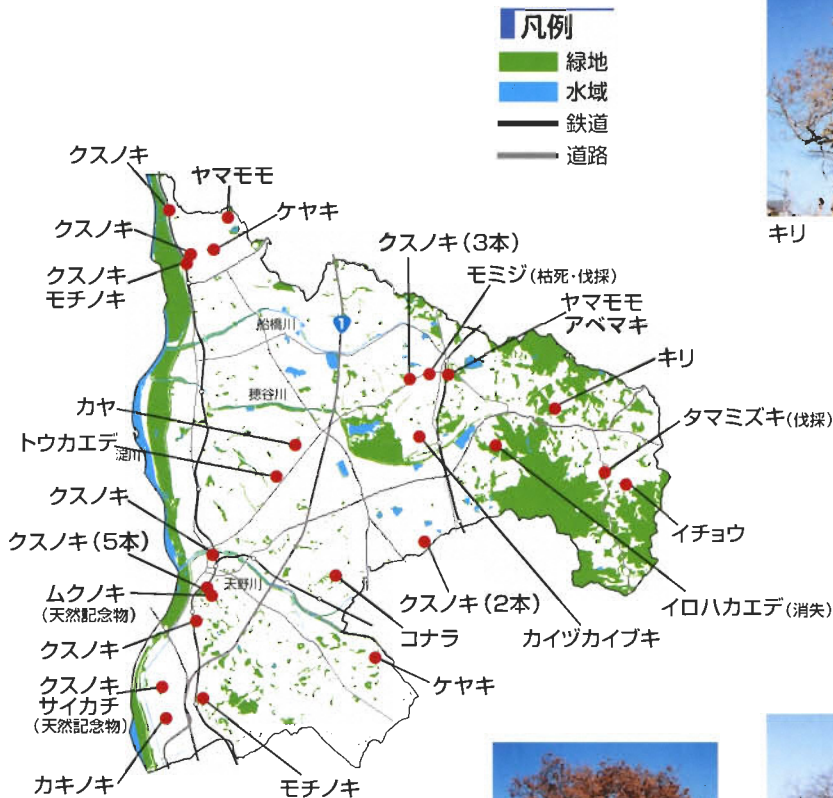
さらに、鳥類の出現をみると、穂谷地区では30種、住宅地に囲まれた香里園桜木町では20種となり、穂谷の里山における多様性の高さを示しています。



重要な樹木

調査対象は、枚方市保存樹木17件（うち大阪府天然記念物2件）、第1回調査で選ばれた重要な樹木16件、市民アンケートで寄せられた2件の計35件で、うち4件は伐採または枯死していました。

樟葉小学校のケヤキ、山田小学校のトウカエデ以外は民有地（ほとんどが住宅地内の私邸または社寺境内）にあります。残っている31件のうち9件（保存樹木6件）は衰弱しており、その多くは樹木医による回復処置が施されています。



クスノキ



トウカエデ



キリ



カヤ



コナラ



アベマキ



ケヤキ



カキノキ



ヤマモモ



サイカチ



ムクノキ



カイツカイブキ



クロガネモチ

植物の保護上重要な地域

「改訂・近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック近畿2001—」（レッドデータブック近畿研究会編著、2001年8月）には、保護上重要な地域として、枚方市内では次の2地域があげられています。その掲載理由と現状は下のとおり。このうち穂谷・尊延寺地区で行った今回の調査では、イヌセンブリ、スズサイコ、キキョウ、オグルマなど18種の絶滅危惧種（大阪府レッドデータブック）が確認されています。それらの保護には、種そのものだけでなく、その生息環境の維持などが重要です。

●京阪奈丘陵（穂谷・尊延寺地区）

学術研究都市などの大規模開発によって自然は大きく失われましたが、一部には特徴的な里山景観が残されています。その代表が穂谷・尊延寺地区で、棚田が多くみられます。棚田やため池の土手には里草地の植物が豊富で、小規模な貧栄養湿地も多く、ため池の水草相も豊かです。しかし、宅地開発や大規模な道路建設が大きな脅威です。

●淀川河川敷（枚方市楠葉付近）

市街地に近接していますが、大規模な氾濫原を特徴づける植物（原野の植物）が分布しています。水域と陸域を完全に隔離するような河川改修や、都市公園的に客土、舗装する河川敷公園づくりによって、淀川本来の特徴的な植物たちの生育地が次々に失われています。



オグルマ



イヌセンブリ



キキョウ



スズサイコ



スイラン



ミコシガヤ

淀川河川敷



昆虫類

今回は126科427種が確認されました。

●里山(穂谷・尊延寺地区)

里山の代表的な種はほとんど確認できました。ハルゼミやネキトンボ、タイコウチ、ウマオイの仲間などです。しかし、良好な里山環境を示すと考えられるミドリシジミの仲間はアカシジミだけでした。

●淀川

キリギリス、コオロギ、バッタの仲間が確認されています。第1回調査で河川敷で確認されたセアカオサムシ、ツシマヒラタシデムシ、ジウクホシテントウ、クロスジチャイロテントウは確認できず、公園化やヨシ原の減少などが原因と考えられます。

●小川、ため池、湿地

ナニワトンボ、ネキトンボ、ヤスマツアメンボ、イトアメンボが確認されています。いずれも絶滅危惧種で、これらの生息環境であるため池の保全が重要な課題です。ヘイケボタル、ゲンジボタルも確認されましたが、第1回調査に比べると確認地点は少なくなっています。



ツマグロヒョウモン



ネキトンボ



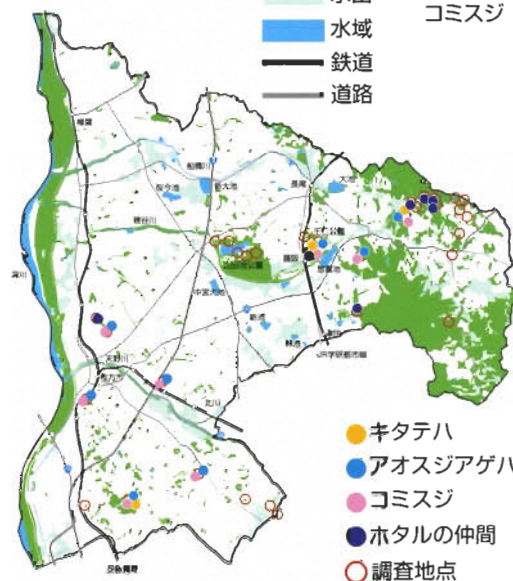
エダナナフシ



コムスジ

凡例

- 緑地
- 水田
- 水域
- 鉄道
- 道路



- キタテハ
- アオスジアゲハ
- コムスジ
- ホタルの仲間
- 調査地点



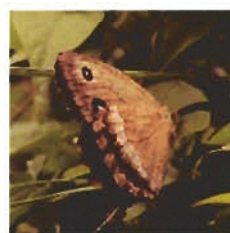
ナニワトンボ



ナツアカネ



オジロアシナガゾウムシ



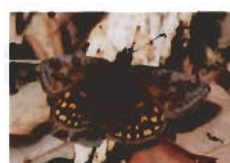
ジャノメチョウ



ハムシの仲間



ツバメシジミ



ミヤマセセリ



イチモンジセセリ



ダイミョウセセリ

鳥類

今回は30科90種が確認され、第1回調査から合わせると38科148種になりました。

●里山(穂谷・尊延寺地区)

クマタカ、オオタカ、サシバなどの猛きん類がこの地区を特徴づけ、昆虫、カエル、ヘビや小鳥などの餌が豊富で、それらの繁殖を支える樹林、水田(湿地)、畑が存在することを示しています。穂谷だけで出現した種は、フクロウやアオゲラ、オオルリやキビタキ、サンコウチョウ、ホトギス、キジなどです。

●淀川

ヨシ原に生息する鳥類の生息環境を形成。今回調査で新たに確認されたミサゴ、タゲリ、セイタカシギ、ミヤマガラスは、いずれも河川敷で見つかっています。

●河川、ため池

冬は、渡り鳥のカモが多く確認されました。ホシハジロ、ミコアイサを除いて水面採餌カモが多いことが特徴。カモ池として有名な山田池とともに、確認種数の多かった新大池は、水辺の鳥の重要な越冬地となっています。カワセミは非繁殖期の冬季調査で毎回確認されましたが、繁殖場所は限定されています。



カワセミ



ヒヨドリ



ハクセキレイ



バン



ダイサギ



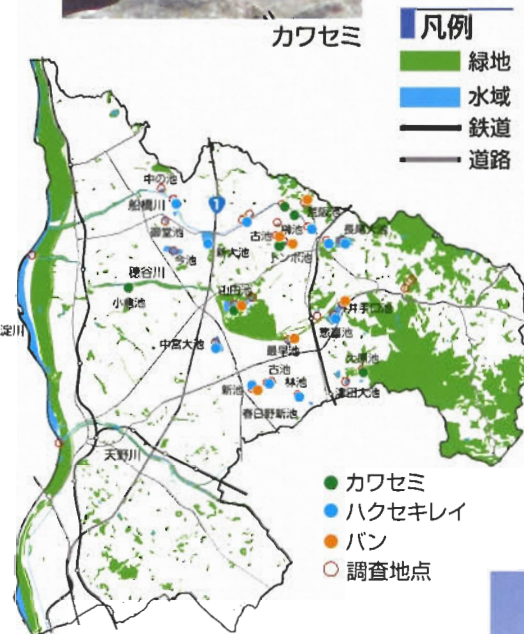
アオサギ



モズ



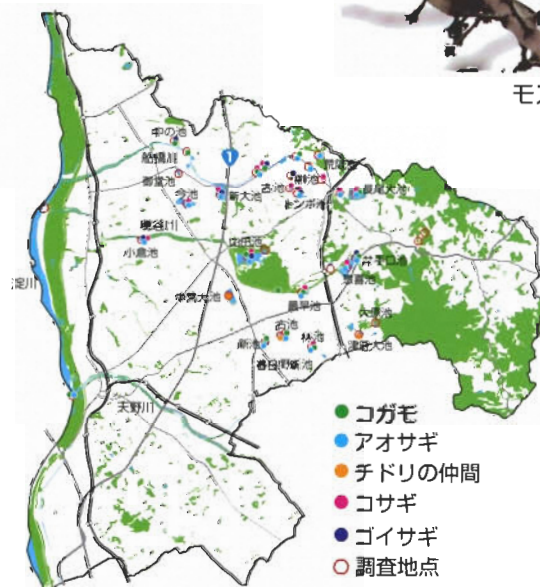
コサギ



- カワセミ
- ハクセキレイ
- バン
- 調査地点



- 市内では珍しい鳥
- コサギ
 - アオサギ
 - チドリの仲間
 - コサギ
 - ゴイサギ
 - 調査地点



- コガモ
- アオサギ
- チドリの仲間
- コサギ
- ゴイサギ
- 調査地点

魚類 (エビ・カニを含む)

今回は、淡水魚類11科31種、甲殻類(エビ・カニ)6種が確認されました。大阪府内の生息調査で、枚方市では比較的好く確認されているメダカは、河川や水路に比べると、ため池では見つかりにくかったようです。メダカに似た外来種のカダヤシに生息が圧迫されているとも考えられています。



メダカ

●河川

船橋川、穂谷川、天野川の合計で33種、河川別ではそれぞれ21種、19種、26種。各河川で出現頻度の高かったのは、メダカ、ドンコ、モツゴ、アメリカザリガニでした。



タウナギ

●ため池

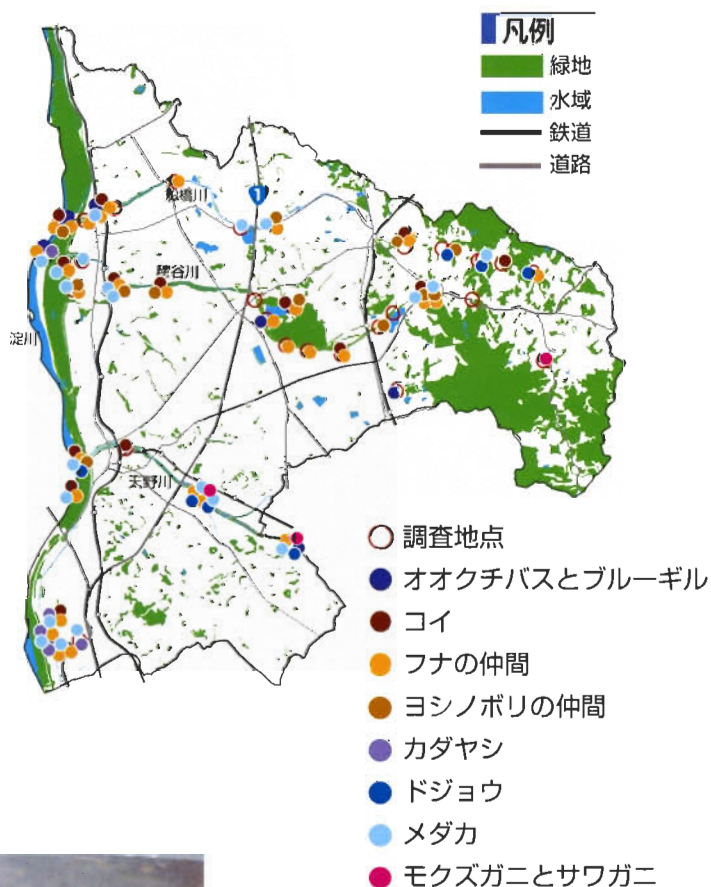
計14種を確認。対象は、尊延寺の小さなため池3か所と市街地に近いため池5か所(山田池、大峰北町2丁目、長尾大池、地蔵池、最早池)。山田池のように面積が広く多様な環境のため池で、出現種が多い傾向にあります。出現頻度の高い種は、スジエビ、アメリカザリガニ、コイ、モツゴ。ほかにテナガエビ、ウキゴリ、カムルチーがみられています。

●市街地水路

計13種を確認。高い頻度で確認された種は、メダカ、フナ類、カダヤシ、モツゴです。

●淀川河川公園内の池

ミナミヌマエビ、アメリカザリガニ、コイ、メダカなど8種が確認されています。



オイカワ



ドジョウ

両生類・は虫類

今回の調査で確認された両生類は2目5科8種、は虫類は2目6科12種。第1回調査からの通算では、両生類11種、は虫類13種になりました。

●里山(穂谷地区)

両生類、は虫類とも8種を確認。両生類はトノサマガエル、ニホンアカガエル、カスミサンショウウオなど、は虫類では、ジムグリ、ヒバカリなどが見つかります。特に、カスミサンショウウオのような小型のサンショウウオは環境の変化を受けやすく、自然環境の特長を示す重要な種です。

●河川

天野川の北川橋から浜橋付近までを調査。両生類2種、は虫類6種でした。クサガメ、イシガメと外来種のミシシippアカミミガメが混生し、在来種への影響が心配されます。

●淀川

牧野ポンプ場付近の河川敷を調査。両生類2種、は虫類6種で、カメ類はクサガメとミシシippアカミミガメ。イシガメは確認されていません。

●ため池の多い地区

長尾荒阪地区の十数か所を調査。両生類4種、は虫類7種で、カエル類は穂谷以外の地区に比べて多く、カメ類はクサガメ、ミシシippアカミミガメ、イシガメがみられています。

●水田

天野川浜橋付近で調査。両生類1種、は虫類2種で、市街地内の孤立した水田の、極めて単調な生物相を示しています。



ヌマガエル



イシガメ



カスミサンショウウオ



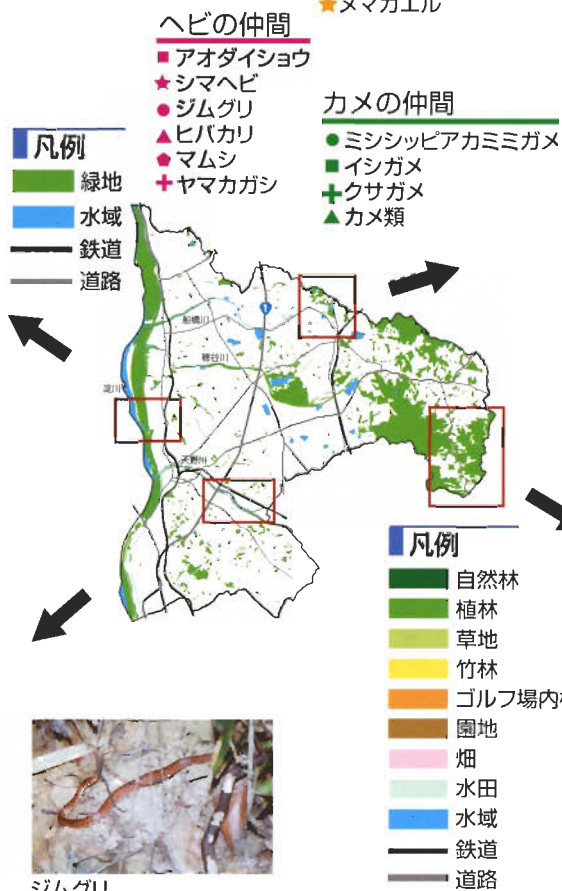
淀川



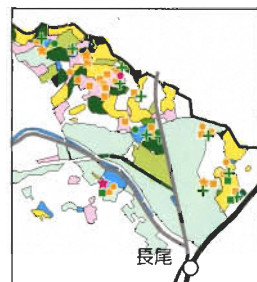
ニホンアカガエル



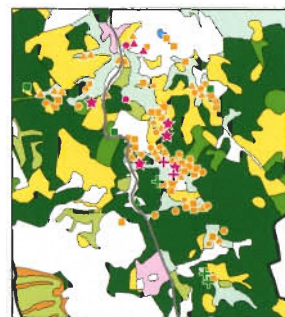
天野川



ジムグリ



長尾



ほ乳類

(調査地は両生類・は虫類と同じ)

今回確認されたのは3目4科5種。第1回調査からの通算では13種になりました(捕獲調査をしなかったことからネズミの仲間を欠いているため、ほ乳類の確認種は少なくなっています)。

タヌキは第1回調査で確認、第2回調査では確認できませんでしたが、今回、穂谷地区、天野川でフィールドサインを確認。日置天神社、香里園桜木町、津田地蔵池でも目撃されるなど、市内の孤立林や河川を生息域にしていることがわかりました。しかし、残飯を求めて市街地に進出する傾向がみられており、必ずしも生態系の豊かさを示すとはいえません。また、コウモリ類は市街地でも見られています。

●里山(穂谷地区)

ノウサギ、タヌキと、イタチの仲間、モグラの仲間の4種が確認されています。

●河川

天野川の北川橋から浜橋付近までを調査し、タヌキ、イタチの仲間とモグラの仲間の3種が確認されています。

●淀川・ため池の多い地区・水田では、いずれも確認できませんでした。

カヤネズミの巣



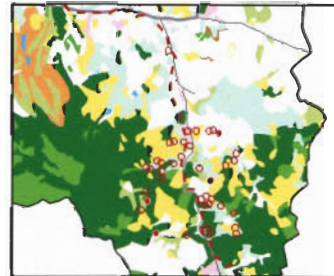
タヌキ・日置天神社



タヌキ・穂谷



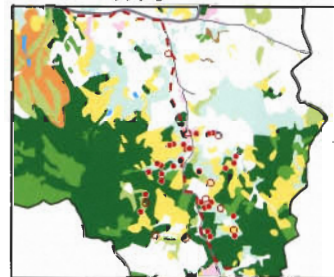
イタチの仲間



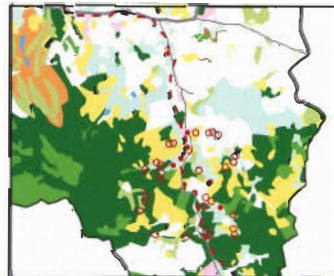
凡例

- 自然林
- 植林
- 草地
- 竹林
- ゴルフ場内樹林
- 畑
- 水田
- 水域
- 調査コース
- 調査地点
- 確認地点
- 鉄道
- 道路

モグラの仲間



タヌキ



タヌキの糞
フィールドサインの一例



タヌキ



凡例

- 緑地
- 水域
- 確認地点

大阪府域の野生生物種との比較

枚方市で行った過去3回の調査結果の種数を、「大阪府野生生物目録」(2000年・大阪府)に掲載された種数と比べてみました。

植物

出現種の多くは、二次林に生育する種で占められていますが、穂谷・尊延寺地区に里山環境が残されていることから、湿地、ため池の植物が比較的多くなっています。



昆虫類

里山で普通に見られる種のほとんどが確認されています。また、草地環境は失われつつありますが、そこに生育する種が多くみられています。



鳥類

オオタカなど里山の猛きん類の出現が、里山環境を特徴づけています。淀川などのヨシ原に生息する鳥類は豊かですが、海浜環境に渡来するシギ・チドリ類はあまりみられません。



魚類

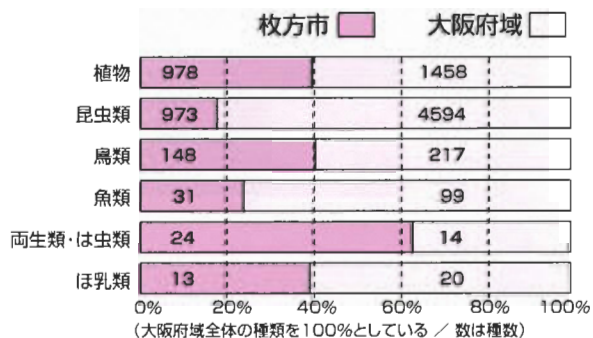
改修工事などによって画一的な構造になっている河川やため池では、魚類相は単純です。農業用水路や小川には、メダカやドジョウなどが生息できる環境が残されています。

両生類・は虫類

両生類・は虫類の出現割合が高いことがわかります。これは、それらの生息環境として重要な里山環境が、東部地域の穂谷・尊延寺地区に残されているためと考えられます。

ほ乳類

里山に生息するタヌキ、ノウサギなどが確認されています。



残したい枚方の自然

今回の調査では、その結果などをふまえて「残したい枚方の自然」を見いだしていきましたが、それには次のような視点でのぞみました。

①水田(棚田)、草地、樹林、ため池などの複合的な環境である里山や、水辺環境がはぐくむ生物多様性の保全 ②市街地などで孤立化した緑をつなぎ、地域全体として有機的なつながりをもつエコロジカル・ネットワークの形成 ③景観形成や生活環境の向上 ④今回の調査に参加した方々など市民の視点

リストアップしたのは95か所。それらを代表する自然は、穂谷・尊延寺地区の里山／豊かな淡水魚類相や原野の環境をはぐくむ淀川／里山と淀川をつなぐ船橋川、穂谷川、天野川などの河川／それらとともに重要な水系環境であるため池、水田——などです。



都市に残された自然環境の意義

都市のなかでそうした「残したい自然」を見いだすには、それらがどのような利点・価値をもつのかを見直しておく必要があります。ここでは4つの側面から整理しました。

①地域の人々にとっての利点・価値

枚方市は、人口の増加と市街化の拡大につれて自然景観が損なわれ、市街地に住む人たちが日常的に自然とふれあう機会が少なくなっています。急速に進む少子高齢化社会への動きのなかで、子供や高齢者が健康で充実した生活をおくるための環境をいかに整備するかが重要な課題です。特に、身近な環境のなかに自然的環境を存在させることは、市街地住民の精神的、身体的健康を維持するうえで不可欠な要素です。

②教育上の利点・価値

急速な市街化にともない、子供たちが自然と身近にふれあう場所、機会が極端に少なくなり、子供の自然に対する関心の低下や情操面に与える悪影響が深刻な問題となっています。身近なところにも質のよい自然環境を用意し、自然とふれあう場や機会を与える努力をすることは、子供の人格形成にとって大きな意義があります。

③野生生物に関する利点・価値

まとまった森林や大きな公園は、野生生物にとっての生息環境としてたいへん重要な空間で、枚方市東部に広がる里山環境を維持、保全していくことは極めて重要です。また、広範な市街地に残る孤立林を保護したり、工場跡地などに公園や緑地をつくり出したり、屋上に緑空間をつくったりすることは、点的で無意味なようにみえますが、エコロジカル・ネットワークの拠点として機能する可能性があります。



④経済的な利点・価値

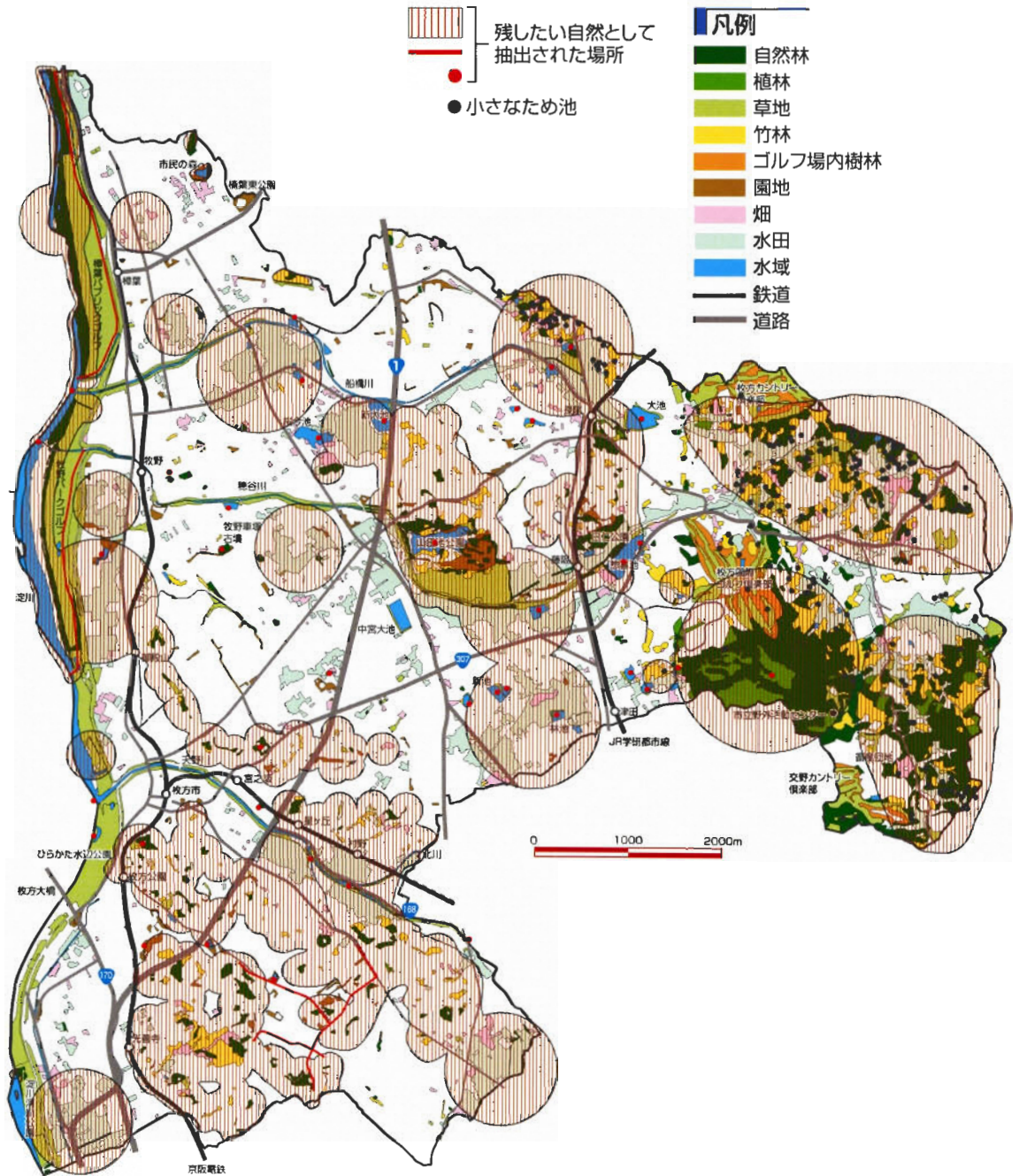
都市の緑地や、それに隣接する水田、ため池などの水域は、急激な温度変化を防ぐなど、少なからぬ気候緩和機能をもつと考えられています。住民に対する「いやし」の効果までを含めると、市街地に残る自然環境の経済的な利点・価値は小さくないと考えられます。



■「残したい自然」マップ

このマップは「残したい自然」のリストをもとに作りました。市の施策を反映したものではありませんが、今後の保全のための合意形成や新たな調査の資料となります。

次のページからは、「残したい自然」と重なる「枚方の代表的な自然環境」を紹介します。



穂谷・尊延寺地区

穂谷・尊延寺地区に広がる里山は、農的な活動が営まれる農耕地、ため池、森林などのさまざまな環境が組み合わさり、人間と自然・生物が共存する地域です。棚田が多く、棚田やため池の土手には里草地の植物が豊富に生育。オオタカやサシバなどの猛きん類の生息を支える豊かな生物相もはぐくまれています。

しかし、農をめぐるさまざまな状況の変化から、里山の自然を維持していくことが困難になっています。また、開発の波をうけやすい立地にあるため、里山は全国的に失われつつあります。大阪の代表的な里山であるこの地域も例外ではありません。



棚田
山林に囲まれた棚田。緩やかなカーブを描くあぜ道。農業が機械化される以前につくられた田、畦はヒューマンスケールになっており、親近感をもたらし。



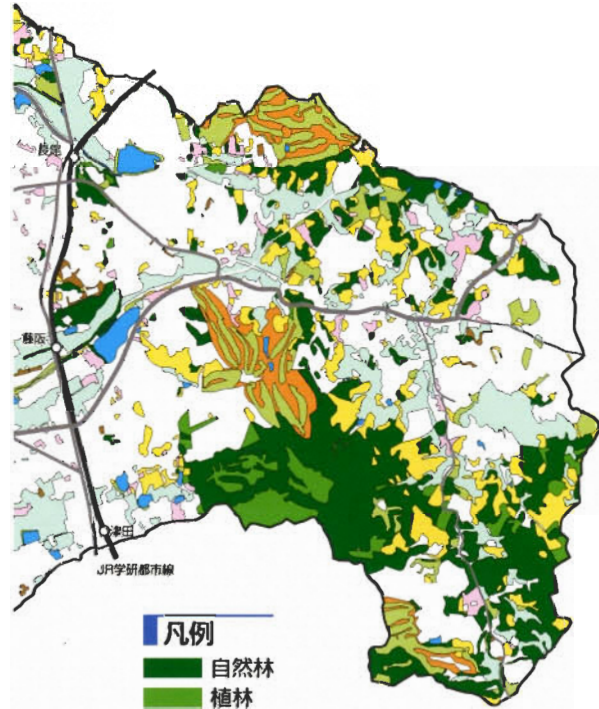
田んぼと山林の境目
山林と田んぼの連続性を確保する溝。成体は樹林で生活し、水田等の浅い湿地で産卵する生物(ニホンアカガエル等)にとって、コンクリートで固められた水路は致命的。



農道と畦
年に3~4回の草刈りによって刈り込まれた畦に生育する草原性の植物は、最終氷期の生き残りと考えられており、畦の減少にともなって絶滅の危機に瀕している。



湿地
ため池の浅瀬に成立する湿地。市内の湿地は、ほとんどため池や水田に付随するものである。湿地に生育する水草には絶滅危惧種も多い。



- 凡例**
- 自然林
 - 植林
 - 草地
 - 竹林
 - ゴルフ場内樹林
 - 園地
 - 畑
 - 水田
 - 水域
 - 鉄道
 - 道路



尊延寺の棚田
通常、傾斜度が1/20以上の傾斜田を棚田と呼ぶ。傾斜の厳しい地形条件は、営農上の労力も大きく、高齢化にともなって耕作放棄につながる場合も多い。



圃場整備
直線的な広い道路。排水路のコンクリート化や乾田化がすみ、生物にとっての水田環境は大きく変化した。

淀川などの河川

淀川は、古来より治水、利水のために改修が進められてきた河川で、魚種の豊かさや貴重種の生存する水系としても知られています。なかでもワンド群の重要性が深く認識され、枚方でもワンドの再生が図られてきています。

一方、かつて淀川にあった植物の多くは、水域と陸域を完全に隔離するような河川改修、都市公園的な整備によって失われています。こうしたなか、重要性の高い原野の植物が豊富な地区として、楠葉付近があげられます。



河川敷

河川敷公園は、施設広場地区、野草広場地区、自然地区、景観保全地区の4タイプに区別される。探鳥会が定期的開催され、四季折々、様々な鳥が記録されている。



ビオトープ

河川敷公園に創出されたビオトープでは、ランド整備によって消失したヨシ原を復元し、鳥類、昆虫類の生息地として回復のきざしがみられる。



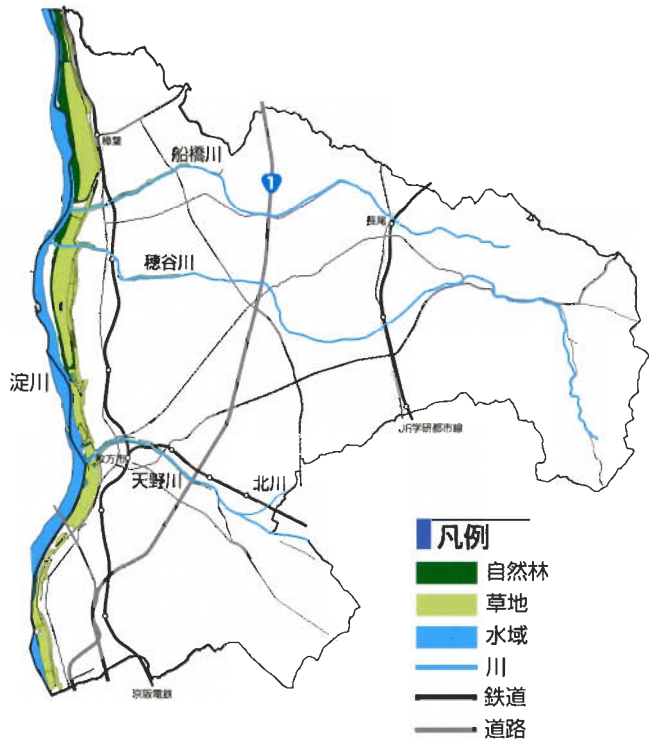
たまり

釣り人が多い。移入種の水草ボタンウキクサが大繁殖している。



河川敷公園の親水空間

陸域と水域との移行帯をもたない水際。市民が水に親しむ空間を提供する。



各地の河川は、相次ぐ改修によって流路の直線化やコンクリート護岸化が進み、河川のもつ本来の自然は失われつつあります。船橋川、穂谷川、天野川も例外ではなく、生物相も単純化しています。また、水質汚濁も生物に影響を与えていると考えられます。しかし、調査では、河床状況の変化などに影響されやすいヨシノボリ類や、水質汚濁に弱いモクスガニが確認されるなど、回復の可能性があることもわかりました。



河口部の魚道

成長とともに川をさかのぼる魚や、増水で下流に流された魚が堰を越えるためには、魚道が必要である。



天野川と北川の合流部

河川の連続性を活かし、水と緑のネットワークを形成することが期待される。



ザリガニを釣る子ども

コンクリート護岸やクサなどの繁茂で、河川水辺へのアプローチはきわめて限られる。小学生が、橋下の護岸を下ってザリガニ釣りを行っている。



穂谷川山田池付近

両岸をササや中低木が覆い、水面に陰をつくる。ここは、水鳥の生息地となっている。現地調査で確認された魚類は少なかった。

ため池

ため池は、もともと田畑への導水を目的として人工的に造られた水域ですが、長い年月の間にさまざまな水生生物が移りすみ、特有の生態系を形成しています。枚方市の里山に残る小さなため池は、トンボやカエル、カメなど多様な生物相を支える重要な水辺空間です。

しかし、市街地では、宅地や公共用地の不足から埋め立てられるケースが相次ぐほか、多くのため池で画一的な構造への改修工事が行われました。生活排水や産業排水などの流入で水質も悪化しています。また、ルアー釣りブームの影響で、オオクチバスやブルーギルが里山のため池でも確認され、在来種の生息が危ぶまれています。

山田池公園



- 凡例**
- 自然林
 - 植林
 - 草地
 - 竹林
 - 園地
 - 畑
 - 水田
 - 水域



山田池春日山付近

春日山は立入禁止となっており、水鳥の生息場所となっている。水面を覆う樹林は日陰をつくり、魚類、水生生物の好適な生息環境を形成する。写真は調査中の風景。



山田池流入部

水深が浅く、ヨシが密生する。釣り禁止区域となっている。ベイトを放流したと思われる移入種のカメが確認される。



王仁公園のため池

樹林に囲まれたため池。ため池周辺でもオニヤンマのヤゴを多く確認。



長尾大池

住宅地に囲まれているものの、わずかに樹林地を残しているため、カワウが多い。広々としたオーフンスペースを提供する。



- 凡例**
- 水域
 - ため池の多い地域
 - 小さなため池
 - 鉄道
 - 道路



尊延寺地区のため池

樹林に囲まれた小さなため池。落葉が堆積し、カエルなどの産卵場所となる。水面に張り出した枝にカワセミがとまり、エサを捕る。



津田の地蔵池

ため池オアシス整備事業により、桟橋やベンチが設置され、公園的に利用されている。魚類の種数、生息数が少ない。夜間にはタヌキが出没。写真は調査中の風景。

田んぼと畑

水田は、そこにはぐくまれる多様な生物相が大きな注目を集めています。かつて水田には、カエルをはじめ、ヘビ、トンボ、タニシ、フナ、ドジョウ、メダカが生息し、それらをエサとするサギ類などの水鳥が多く飛来していました。

一時期、強い農薬の使用によって生物の多様性が失われましたが、最近では回復の傾向にあります。

水田や畑と樹林地が一体となった空間は、都市の自然ネットワークの要となり得ます。

しかし、枚方市においては、宅地化などにより減少する一方です。市街地ではヒートアイランド現象の緩和にも効果があることから、その存在は高く評価されます。



近郊の水田と畑

市街地に近い比較的大きな水田と畑。



市街地の水田

住宅や学校に囲まれた小さな水田地帯。



孤立林と水田

水田と樹林が一体となっている、比較的大きな水田地帯。



林縁の草地

水田に陰を落とさないように樹木が伐採され、定期的に取り込まれる草地は、昆虫類の好適な生息場所となり、生物多様性が高い。



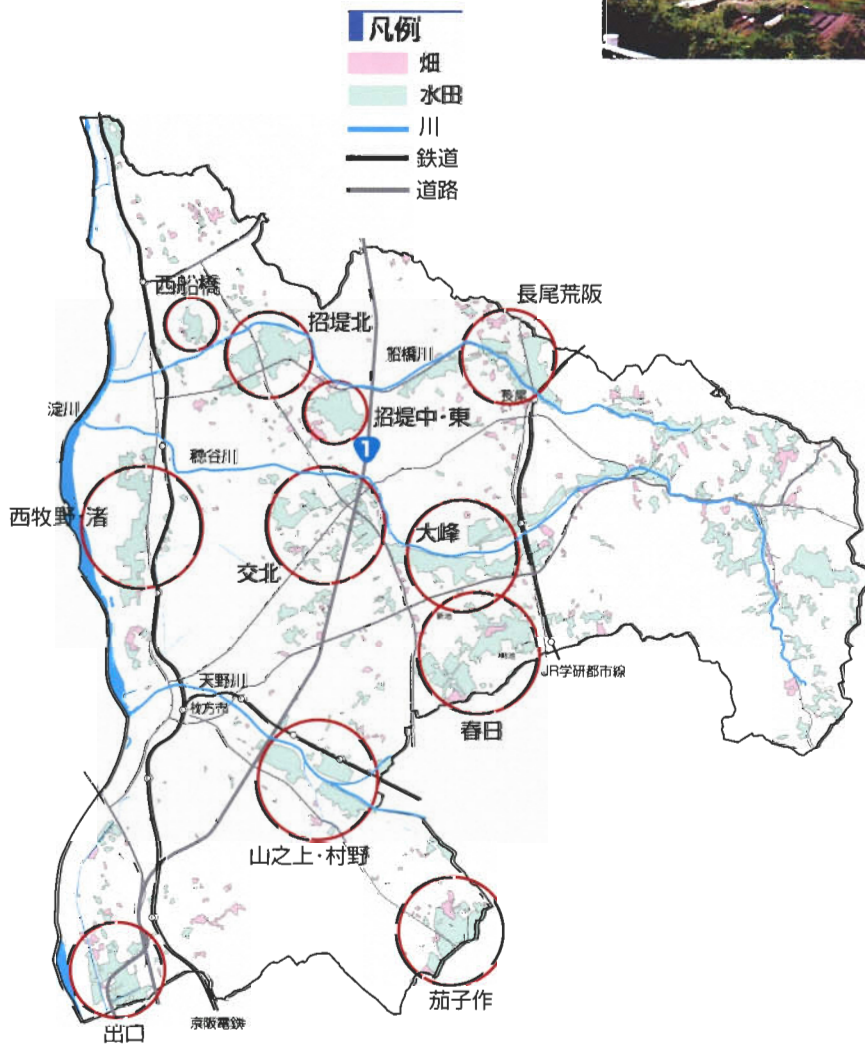
まとまりのある水田

水田の多くは晩春から初夏にかけて水が張られ、水域としての機能を持ち、水生昆虫の生息場所となる。大面積の水田は、ヒートアイランド現象の緩和にも役立つ。



孤立林と水田

樹林と水田が隣接する場所は、市街地ではきわめて限られている。多様な生態系が連続するため、動物の生息場所として重要である。



おもな孤立林

孤立林には、比較的大面積の山田池公園春日山(22.1ha)、また小面積で帯状の斜面樹林、点在する社寺林などがあります。これらは、いずれも自然性、景観性、あるいは風土性からみて重要なものと考えられます。また、東部地域で開発によって分断された孤立林には、里山に由来する多様な生物が生息しています。

これらの中から選んだ代表孤立林10か所については、周辺の樹林とのつながりも調べてみました。その結果、周辺との連続性が高いのは、山田池公園春日山や藤阪天神町、津田東町、意賀美神社、逆に連続性が低く孤立度の高いのは、香里ヶ丘東公園、御殿山南町、星丘——といったことなどがわかりました。連続性の低い孤立林は、面積の縮小やさらなる孤立化によって環境の変化が予測されるため、エコロジカル・ネットワーク形成の拠点として保全管理する必要があります。

山田神社

住宅に囲まれ、島のように孤立した樹林。公園や社寺以外の孤立林は、存在価値の低い土地として開発の対象になりやすい。



山田神社林内

孤立林は、かつての農用林として利用されていた林が多く、今もその名残をとどめている。自然観察など、身近に自然とふれあえる場所として保全・整備が望まれる。

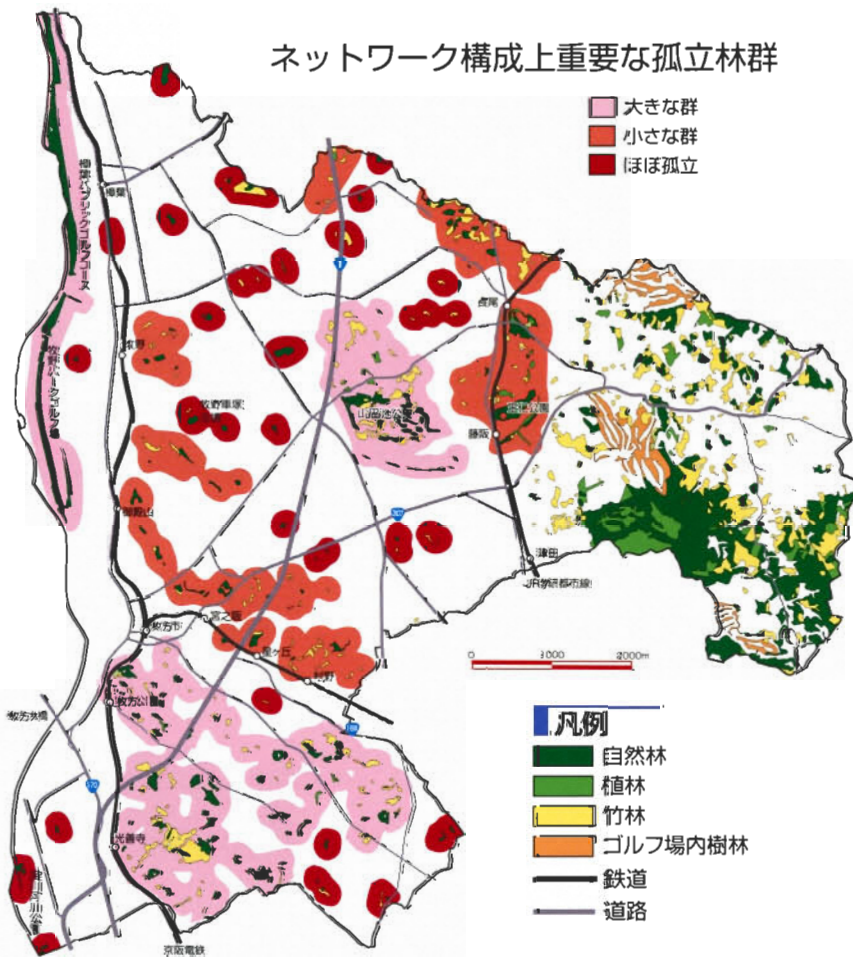


河岸段丘

河岸段丘の斜面林は、緑の帯となって視認性が高い。大きなコナラが多く、豊かな緑となっている。



ネットワーク構成上重要な孤立林群



意賀美神社

京阪枚方市駅前の歩道橋から、市の中心部から最も近く、豊かな緑。



香里ヶ丘東公園の林床

下草が少なく、見通しのよい林床。コナラ、クヌギなどの樹林であり、樹液に集まる昆虫類が生息している。糞食性のコガネムシ類が確認された。

■ パートナーシップづくりも課題に・・・ ■

2年間にわたって行った「枚方ふるさといきもの調査」の結果や参加した市民の思いからは、特に、東部地域の里山や淀川などの面的な自然の保全、さらに市街地周辺における水田・農地や農業用ため池などの保全が大きな課題として浮かび上がってきました。

調査は2年間で終わりましたが、保全の取り組みはこれからが重要となります。その一つとして、市民調査員の皆さんが調査のあとも継続的にデータを集めるため、独自に「枚方いきもの調査会」を結成。情報を保全に役立てようと、自分たちで調査・観察会を開いてがんばっています。



これからの自然環境保全には、行政だけではなく、市民の方々の参画が重要な要素となります。今後、そのパートナーシップづくりに取り組みながら、今回の調査結果を活かしていきたいと考えています。



■ 自然にふれあうマナーを守って!! ■

自然を守っていききたい——そんな思いは、自然とふれあうことからはぐくまれます。自然観察は、その大切な機会。でも、マナーを守って自然に接しましょう。

- 自然観察などで森林や田んぼ、畑などの民有地に入る場合は、事前に土地所有者の了解を取りましょう。農作物や工作物などを荒らさないよう十分注意しましょう。

- 動植物など自然のものは、採ったり持ち帰ったりせず、自然に返しておきましょう。また、道以外の林床や湿地などを踏み荒らさないようにしましょう。

- オオクチバスやブルーギル、メダカに似ているカダヤシなどの外来種を、ため池や川、水路に放さないようにしましょう。外来種のクワガタムシなども同じです。

- ゴミはすべて持ち帰り、果物などのタネも捨てないようにしましょう。



■ 枚方市内で活動している市民団体 ■ (自然保護、自然環境調査等)

会の名称	連絡先	活動内容
尊延寺の自然を守る会	代表 稲森 郁子 072-858-6260	東部地域の里山保全を目的に活動
あかね市民学級	代表 村山 幸子 072-853-4469	家族で参加できる自然観察・講義・科学あそび・実習など
京阪ネイチャーズ	事務局 山崎 達男 072-857-0451	京阪沿線在住の大阪シニア自然大学修了生による会 自然観察や自然工作の指導、勉強会など
枚方ホテルの会	事務局 072-850-0932 《(有)リフォーム倶楽部リーフ内》	ホテルの調査、保護、ビオトープづくりなど
枚方自然探査会	代表 橋本 利清 072-852-0109	動植物調査、希少動植物の保護、里山保全など
枚方いきもの調査会	代表 石川 新三郎 072-868-1841 事務局 松下 孝雄 072-868-3836	枚方市における自然保護を目的とした観察会や調査活動の実施
枚方野鳥の会	代表 藤原 和泉 072-841-4410	枚方市内および近郊の野鳥の観察と、会員相互の情報交換、探鳥会を実施
水辺に親しむ会	代表 立川 亨一 072-832-1596	淀川左岸の水辺を中心とした自然環境保護活動
枚方しせんハイキング	代表 本村 勝一 072-833-3271	枚方市穂谷地区を中心とした里山保全、自然観察会の実施
大阪自然環境保全協会	代表 高田 直俊 事務局 06-6374-3376	大阪府や周辺地域における自然環境の調査、政策提言、普及啓発など 全般的な自然保護活動

ここに掲載されている団体は、枚方ふるさといきもの調査に参加された市民の方々が所属している市民団体で、掲載の確認がとれた団体です。問い合わせは、直接各団体へお願いします。



枚方市の自然

平成14年(2002年)8月1日 発行

一枚方ふるさと いきもの調査から — 2002

製作・発行：枚方市 環境対策部 環境政策室 生活環境課

〒573-8666 枚方市大垣内町2丁目1番20号 TEL072-841-1221(代) FAX072-841-3039

編集・協力：(社)大阪自然環境保全協会 / 写真提供：山野一美 藁野信義 田仲泰之



この冊子は古紙配合率100%の再生紙を使用し
環境にやさしい大豆油インキで印刷しています